

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県立津山東高等学校		
実践者等	1年生国語担当	実践日	令和3年6月1日
実践場面 (教科・科目、学校行事等)	国語・現代文		
対象生徒(学年等)	1年生普通科		
単元名 (教科・科目の場合のみ)	水の東西		
使用したアプリ等	Jamboard		
実践の概要(ねらい等)	Jamboardを使用し、主体的で協力的な学びを行う。 新型コロナウイルス感染症に気を付けながら、活発なコミュニケーションが期待できる。		

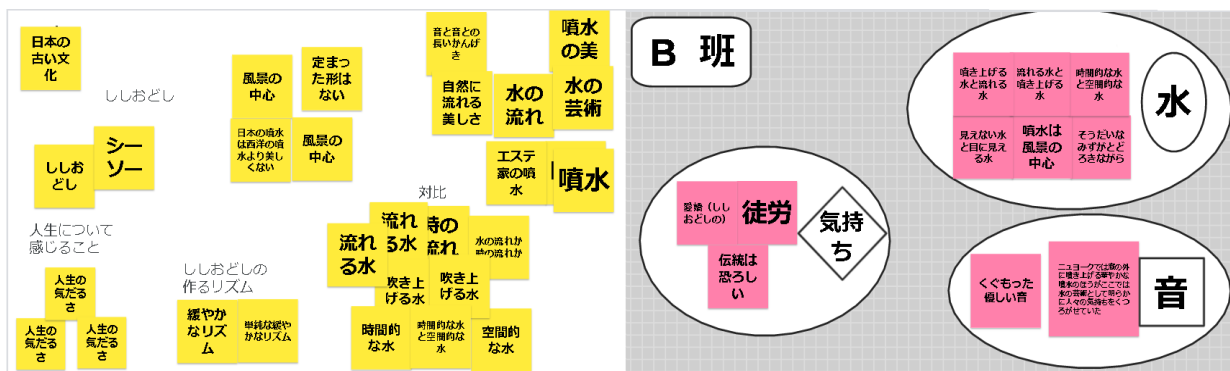
実践の内容

○実施の手順

- ・ 教員による教科書の範読。
- ・ 範読を聞きながら気になった語句、文節に印をつける。

○4人組の班になる。

- ・ KJ法の要領で、Jamboardに各自の気になった用語を貼り付ける。
 - ・ 各班で話し合いながら、Jamboard上で各自の付箋をグループ分けする。(グループ分けのやり方も各班独自で考える。主体的に考えさせることができる。)
 - ・ 作成したJamboardをもとに、さらに筆者の主張を皆で考えあい、別のシートにまとめる。(この時もJamboardで作成)
 - ・ 各班でまとめたシートを使い発表。(時間がない時は、Chromebook上で他の班のものを閲覧)
- ※次回以降に小論文を書かせる。このとき、この授業で作成させたJamboardを使用してよいこととする。



○実施の利点と課題

(利点)

- ・ 紙の上でのものと比べ、保存性がよく生徒がいつでも参照可能になる。
- ・ 全員での意見の共有ができ、多様な意見を吸収できる。
- ・ 後で書かせた小論文では、自分たちの班とは違う班のJamboardを見ていた生徒も多くいた。

(課題)

- ・ 操作に慣れないうちは、操作にばかり時間を取られる生徒がいる。
- ・ 40人全員で1つのJamboardを使用するとフリーズしたので、20人ずつで2つのボードを使用して授業を行った。

参考となるHP等